

【静岡県函南町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、日常的にICTを活用することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本町では、令和2年度から、学習ネットワークを整備し、1人1台端末を導入し、令和3年度から本格運用を開始した。併せて学習用ツールとして株式会社LoiLoの「ロイロノートスクール」を導入し、意見共有やプレゼン資料作成などを授業の中で活用してきた。また、授業支援ツールとしてはウィンバード株式会社の「Winbird」を導入し、1人1台端末を活用した双方向授業を進めてきた。

AIドリルとしては、ライズ株式会社の「eライブラリ」を全小中学校で試行的に導入し、授業における学習の定着や家庭学習に活用し、その有効性が確認された。一方で小学校においては、一部の学習に対する意欲の高まりが見られた反面、発達段階、学習段階による学習方法について課題が確認された。そこで、令和6年度より小学校については各校の実態に合わせたAIドリルを学校ごとに選択することとした。

これらのような端末の持ち帰りを含めた1人1台端末の活用が進んでいる半面、度重なる端末の故障や、主に児童生徒が一斉に端末を使用した際のネットワークの速度遅延等不具合も生じた。GIGA第2期に向けてはこれらの課題に対応できるよう、適切な1人1台端末の調達と共に、ネットワークアセスメントの実施することで、必要なネットワーク環境の整備に取り組む。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

県のICT研修会の活用や、オンラインを活用した研修会や情報提供の充実を図り、アーカイブ配信の活用を促すことで、場所や時間にとらわれない研修会を目指し、教職員が1人1台端末を積極的に活用するための知識や技能を得られるようにする。また教師用デジタル教科書を全教科で導入する。

7校に対し2人のICT支援員の配置を継続し、連携の強化や活用事例

の共有をしていく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

すでに全ての学校で1人1台端末の日常的な利用が進んでいる。1人1実践の蓄積や好事例の共有により、「児童生徒が自分で調べる」「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する」「教職員と児童生徒がやりとりする」「児童生徒同士がやり取りする」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む」等様々な場面での活用を進めていく。

(3) 学びの保障

希望する不登校児童生徒が端末を活用した授業へ参加するための環境整備、オンライン学習のルール整備を行う。また「心の健康観察」や端末を利用した相談体制について好事例の共有や情報交換の場を積極的に取り入れる。

特別な支援を要する児童生徒への支援として音声教科書や学習用アプリの積極的な活用を進めるとともに、担当者研修等において効果的な活用のための情報提供や情報交換を行う。